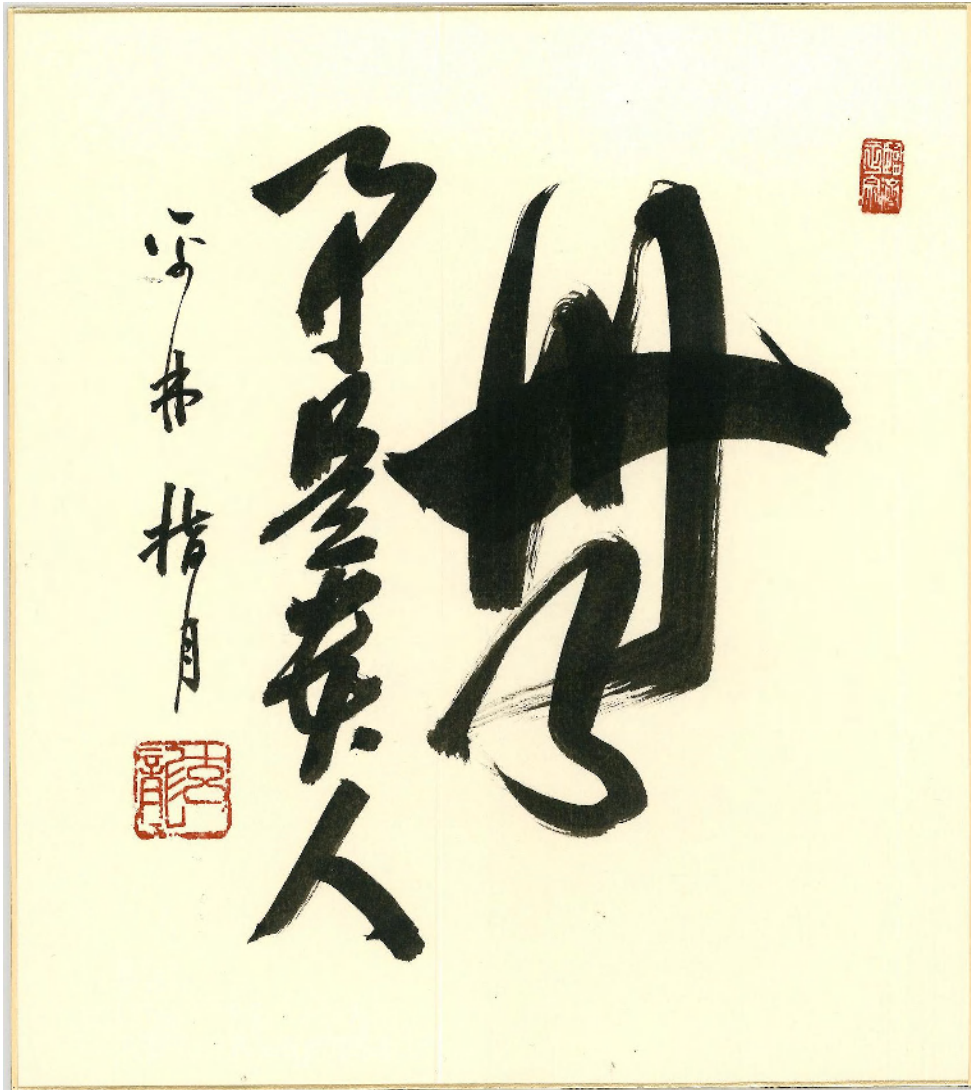


圓福寺報



「無事は貴人」

平林寺専門道場 指月庵 野々村玄龍老大師御染筆

圓福寺報 第五十九号
 平成二十三年七月十五日発行
 発行者 臨濟宗妙心寺派 圓福寺
 千葉市稲毛区六川町三七五 TEL (二五二) 九一八一
<http://www.chiba-enpukuji.com>
 E-mail: oshou@chiba-enpukuji.com

目次

法話「無事は貴人」	2
宗達禅士 「円覚寺立班垂示式」	7
二順目第七回 「四国歩き遍路の旅」	8
第八回四国あるき遍路のご案内	16
平成二十二年度花園会会計報告	16
四月の土曜会 「東日本大震災復興祈願写経会」 斎藤加代子さん 写経奉納の新聞記事	17
境内墓地のご案内(二区画)	17
お寺と和尚の日録抄	18
六川花園幼稚園 園だよりから 「じぶん、たんけんたい」	19
地藏盆のご案内	20

ぶじこれきにん 「無事は貴人」

今号表紙に、三月に亡くなられた平林寺指月庵老大師ご染筆の「無事は貴人」を掲載させていただきました。それにちなんで「無事は貴人」のお話をいたしました。

「無事は貴人」という言葉は、「臨済録」という臨済宗の宗祖臨済禅師のお説法をまとめた記録集に出てくる言葉です。臨済禅師が修行僧たちに向けて説法をされました。

「おまえさんたちが一生懸命坐禅をしたり、説法を聞いたりと修行に励むのは、なににごとも左右されない『正しい人生観』を得るためじゃ。」

「ば、人生無事に過ごせる。そういう人のことを『貴人』と言うのじゃ。」

■ご無事でなにより

私たちも、無事という言葉を使います。三月の東日本大震災で被災された方に、「ご無事でなによりでした。」とお見舞いの言葉をかけられた方もたくさんいらっしやったことと思います。旅行に出かける人に向けて、「道中のご無事をお祈りします。」、物事が大過なく終わると、「無事終了。」といいます。怪我をしたり、事故に遭った

り、ハプニングがあったり、そういうことが何も無い、あるいは無病息災で生活できているというのがなによりだと私たちは喜びます。それでは、無事は貴人とは、大過なく過ごしている人のことでしょうか。そんなことだったら、臨済禅師のもとで厳しい修行をせずとも、だれでもが簡単にできることです。

■外、諸縁を息め

厳しい修行を通して得られる、この「無事」を禅宗ではどう考えているのでしょうか。臨済禅師より十代さかのぼると、皆さんよくご存知のたるま



建長寺派管長 故寒松室 宮田東珉老大師の遺墨。

さん「達磨大師」です。達磨大師は無事のことを定義されています。それは、

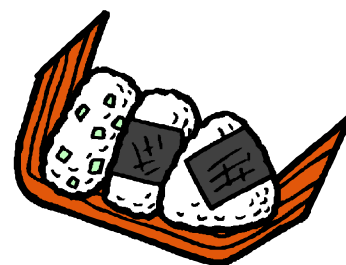
「外、諸縁を息め、内、心に喘ぐことなし。」

回りのことに振り回されない、あるいは振り回されていることをちよつと休んでみよう、振り回されていることから少し離れてみよう、そして自分の感情や欲望に縛られないことが、「無事」だとおっしゃいました。

宗門安心章という和文のお経では、「こん餓え来たれば飯を喫きつ

し、びようじよう困じ来たれば即ち眠る。た

だ平常にして無事なれば、無事これ貴人と悟るべし。」といひます。言葉の意味からすると、腹が減ったらめしを食ったらい、疲れ果ててしまったらぼろ雑巾のように眠ったらい。ところが、食欲や睡眠欲の赴くままにするのが平常でないことは人間なら当たり前のこと



です。腹減った腹減ったで、めしめしとなるとその食べるといふことに振り回されてしまう。疲

れた疲れた、どこか寝る所はないか、休むところはなにかととなると、そのことに振り回されてしまう。これでは、心休むことは到底無理な話で、平常なころではありませんから、当然貴人とは呼べないわけです。

そこで、宗門安心章では、「ただ平常にして無事なれば」といふ条件をつけているのです。

■ 餓え来たれば飯を喫し

遍路中、五番札所を終えたところでちよつどお昼ぐらいになったことがあります。そろそろお昼ごはんの心配をし始める一同。しかし、回りを見渡して

も食堂はもちろん食料品を扱う店も、とにかく店がありません。それでも、少し先に行けば店ぐらひはあるだろうと思ひ、足を進めます。次の角を曲がればあるだろう、その先のカープを過ぎれば店が見えるのではな

いかとだれもが思ひながら歩きます。人に聞こうにも、そういうときに限って道を歩いている人はいません。ほかに歩いているお遍路さんも見えません。

「餓え来たれば飯を喫し・・・。」とはいふものの、飯にありつけない有様で、とにかく歩く以外ありません。腹減った腹減ったと、こころが喘いでいます。一時すぎによく食料品店が見えてきました。とりあえず、店に入って食堂かなにかないだろうかと尋ねると、この先に食堂はおるか店などないよ、と。あつあつのだんにでもありつけるかと思っていた全員の頭の中から湯気がとんで、目の前の菓子パンや

バック詰のまぜごはんは視線が集まり、それを買って途中で食べようという話はあまりありません。あれもこれも。といったも、お昼過ぎの食料品店にはパンやおにぎりなどいくらも残っていますので、ほぼありったけのパンやまぜご飯を買って、途中で食べることにしました。公園なんていうしやれたものはありませんから、最後は道ばたで食べる覚悟をして歩いてみると、奥の院の看板。奥の院であればお堂の前に場所があるだろうというので入っていくと、できたばかりの階段が山の上に向って伸びています。階段の入り口に、〇〇公園と書いてありますから、きっとこの階段を上っていけば、公園があって、ベンチがあって、遅い昼飯を食べるのに都合がいいだろう



ということ、その階段を上った以上には長い階段は空腹のお遍路さんには結構きつくなかなか頂上につきません。ようやくついた頂上には、ちいさな東屋がぽつんとあるだけです。それでも、その東屋のベンチにお尻を寄せて、遅い遅い昼飯にありつくことができました。冷たくなった缶入りの飲み物と、少しぼそぼそのパン、それに冷たいまぜごはんでしたが、なによりのごちそうとなりました。「餓え来たれば飯を喫し」というのは、とても大変なことなのだ、痛切に感じさせられました。あたりまえにお昼にご飯を食べることが、こんなに大変なこととは・・・。あらためて、あたりまえのあり難さがわかった気がしました。無事とはこのことかと思っただけですが、実は、無事はもっと奥深いものです。

■ただ造作することなかれ

臨濟禅師は、「無事は貴人」のあとに続けていいます。「ただ造作することなかれ、ただこれ平常なり。」と。腹減った腹減ったで心が喘いでいたところに、ようやく飯にありつくことができそうだ。そこで、店先でもなんでもちよつと借りて食べればいいものを、私たちはめしが手に入ったら入ったで、こんどはどこで食べるかという諸縁に振り回されてしまいました。ベンチがあってゆったり坐れる場所、公園なかで景色がよいところ。これを臨濟禅師は「造作」と言うわけです。せっかく奥の院があったのに、公園なんていう看板につられて、長い長い階段を登らされて、挙句はせっかく買った缶入りのお茶が冷めてしまったりして・・・。

私たちはとかく、もっともつとと考えて、「造作」してしまします。きつといい食堂があるだろう、食べるのにいい場所があるだろうと、それに振り回され、拳句はたいしたものも場所も見つけられずに過ごしてしまることが多いようです。

■無事・・・はからいなく

徳島最初の難所があります。十一番札所藤井寺は、四国八十八ヶ所中、二ヶ寺しかない妙心寺派のお寺ですが、そこから十番焼山寺までのへんろ路は、距離が約十三キロ、高低差六百メートル以上のところを大きく分けると二山越えて、最後に急斜面を一気に登るというコースでした。

登り始め、しばらく行くと茶畑に出ます。まだまだ人の手が入っている畑があり、振り返ると吉野川の大きな流れが雄大に広がっているのが見えます。吉

野川の向こうに、昨年歩いた一番から十番までの札所が麓に並ぶ山



並が見え、去年はあの山並の裾野を歩いたんだなあなどと感心したりする余裕もありました。そのうち、振り返っても遠くの景色なんか見えない山の中に入っていくきます。山頭火の詩に、「分け入っても分け入っても青い山」というのがあります。道が、まさにその通りです。道は、雨でも降れば沢に変わるような、雨で荒れた石ころだらけの場所もあります。それでも、私が歩いた時よりははずいぶんと整備されて歩きやすい。

互いに励ましながら、一步一步進んでいきます。そのうち、人を励ます余裕もなくなり、全員がほぼ無言のままとなりまします。耳を澄ませば、うぐいすの声と、私が頭陀袋にぶら下げている鈴の音だけが、へんろ道に

響きます。途中にある最初のお堂で一休みした時に、ちよつと言葉を交わした程度でまた、無言のへんろが続きます。次のお堂までどれぐらいだろうか、まだつかないだろうか。余裕があれば出てくる言葉も出てきません。おそらく、心の中でそういう気持ちが起こっては消え、起こっては消えしていったに違いありませんが、そんな気持ちは、険しいへんろ道を歩くことで自然に消えていきます。

これが「外、諸縁をやめ」て歩くことだと気づかされます。私たちは、何かあるとすぐに不平を言い始めます。ところがその山中では、不平を言っても、うぐいすの声と鈴の音でかき消されるようなもので、どうしようもありません。不平を言ったところで何が変わるわけでもないのです。変えようと思えば、一步を進める以外ないのですから。

歩き始めて約三時間。柳水庵

というお寺に到着しました。時間は十一時ぐらいいました。このあとまだ急なのぼりが二ヶ所あります。朝食は、夕べの宿で六時前に済ませていますから、お腹が減っています。だれが言うでもなく、自然とここでお昼ご飯ということになりました。初日に食堂を探して右往左往、パンを買ってはどこか場所を探して右往左往していたのは大違いです。まさに、「餓え来たれば飯を喫し」とは、このことだと。何の計らいもないわけです。



それは、急いでいる時に自分の前で信号が赤に変わった時に、畜生などと思うのはちがいが、また、信号が変わったから決まりだからとまらなければいけないのだと思ってしまうのとも違い、何の計らいもなく赤信号で止まるのと同じです。信号が変わった畜生！、では「心に喘ぎ」があふれていますし、決まりだから守らなければいけないと我慢するのでは、「諸縁」に振り回されていることになりました。何の計らいもなくということが大切で、それが「餓え来たれば飯を喫し、困じ来たれば即ち眠る」、ただただ平常な生活の仕事なので。

険しいへんろ道があることで、私たちは自然と外からの刺激に振り回されないう平常な心をもつことができたような気がしました。これが、達磨大師のいう「無事」なのではないでしょうか。別にへんろをしなればそれができないかという決してそうではありません。「外、諸縁を息め」ですから、ときどきは回りに振り回されることを休んでみる時間を作ることです。くことができるはず。坐禅や写経などは、諸縁を息める格

好の行でもあるわけです。

■行は、繰り返し

とはいえ、遍路では「無事」に少し気づかせてもらっても、普段の生活に戻ると、「諸縁を息め」ることができずに、造作をしたり、はからいをもったりしてしまいます。どうやら、いつまでたっても「貴人」には程遠いようです。

そこで、また遍路に出かけては、諸縁を息めてくるという繰り返し。なるほど、「行」とはよく言ったもので、繰り返し繰り返しなので。

最後に、はからいのない生き方を言った良寛さんの有名な一句をご紹介します、お話を終わりにいたします。

「災難に遭うときは災難に遭うがよろしく候。死ぬる時は死ぬがよろしく候。これはこれ災難を逃るる妙法にて候。」

円覚寺派管長 青松軒 横田南嶺老大師御染筆



去る六月十五日、圓福寺にて出家得度した宗達禅士の、立班垂示式が、臨済宗円覚寺派大本山円覚寺にて挙行されました。圓福寺から住職と役員さんが参列させていただきました。

宗達禅士

りっぱんすいじしき

円覚寺立班垂示式

平成二十三年六月十五日（水）

於 北鎌倉 円覚寺

「立班垂示式」は、円覚寺派の法系を継ぐ儀式で、これにより正式に円覚寺派の僧侶と認められます。早朝四時よ

り、円覚寺開山様真前、国宝舍利殿内で立班垂示式を厳修し、禅問答にて法系を継ぐにふさわしいかどうかを諮問され、無事に式が終わりました。その後、舍利殿内にて読経、続いて仏殿に移動して国家安泰を祈念する祝聖のお参り、大方丈での法話、管長猊下ご臨席にて粥座。記念撮影の後、管長猊下に御礼の相見。四時間にも及ぶ行事が終わって円覚寺を後にしたのは、午前八時過ぎでした。厳かな式に参列できた喜びと同時に、早朝の



平成23年6月15日 満蔵寺住職立班垂示式

円覚寺山内を歩くすがすがしさに満ち足りた気持ちでした。宗達禅士は、この日職状をいただき、晴れて富浦町臨済宗円覚寺派満蔵寺の住職となりました。これまで、宗達禅士とご紹介して来ましたが、今後は満蔵寺さん、あるいは満蔵和尚と呼ぶこととなります。

四国あるき遍路の旅

2 巡目第7回



出口海岸でお弁当

平成23年2月25日（金）～27日（日） 参加者 18名

第7回のあしあと

期日	曜日	コ	ー	ス	予	定	食事・宿泊		
1	2月25日	金	7:30	羽田空港集合	ANA561	09:45着	10:00発	【歩いた距離】約13.3km	
			10:35着	空港連絡バス	羽田空港	JR土讃線	12:31着	12:40発	【歩いた距離】約24.3km
			13:40着	一歩一歩 約5.3km	奥大坂	「南風3号」	14:40着	16:00着	下段は健脚組の歩いた距離
			17:13発	JR土讃線	17:24着	七子峠	17:30発	17:40着	
			影野駅	窪川駅	約0.5km	37番岩本寺	宿泊：岩本寺 高知県高岡郡窪川町茂串3-0880-22-0376		
			【健脚組】	一歩一歩 約23.8km	17:45着	37番岩本寺	※土佐久礼駅から七子峠まで予定より早く着くことができたので、健脚組は岩本寺まで歩くことにした。		
2	2月26日	土	7:30発	37番岩本寺	窪川駅	8:04発	土佐くろしお鉄道	8:44着	【歩いた距離】約20.1km
			9:00発	海の手迎駅	道の駅「ピオスおおがた」(昼)	10:00着	海の手迎駅	10:00着	昼食：「道の駅おおがた」で購入
			10:15発	海の手迎駅	10:40着	東屋	約3.7km	12:25発	海の手迎駅
			13:10着	平野7-1	13:30発	14:00着	14:00着	14:50着	
			15:50発	西南交通バス	17:31着	初崎入口バス停	室戸岬	38番金剛福寺	土佐清水市足摺岬214-1 0880-88-0038
3	2月27日	日	7:30発	38番金剛福寺	津呂へんろ小屋	約3.2km	窪津漁港	約3.0km	【歩いた距離】約14.9km
			11:15着	以布利分岐	11:50着	以布利バス停	12:08発	12:55着	
			13:24発	南風20号	15:03着	15:15発	空港連絡バス	15:49着	
			17:55発	ANA568	19:15着	高知龍馬空港	羽田空港		
			健康組	【歩いた距離】約48.3km					
			健脚組	【歩いた距離】約59.3km					

二順目第七回の四国あるき遍路の旅は、十八名の参加者で、二月二十五日～二十七日の二泊三日で行ってまいりました。毎回作成している写真集から抜粋して、遍路の様子をご紹介します。

土佐久礼から七子峠越え

くれ ななこ

高知駅から約一時間、土佐久礼駅で下車し、ここからは歩き遍路の真骨頂の一つ、峠越えです。

三十七番岩本寺への遍路道は、三十六番青龍寺から横浪黒磯ラインを通り須崎から海沿いの道となり、土佐久礼から内陸部に入っていきます。土佐久礼

わうかん

からの遍路道は、土佐往還そえみみず遍路道と大坂遍路道の二つのルートに分かれます。岩本寺の奥さんに聞くと、そえみみず遍路道は整備はされているものの階段が多く、きついですよとのこと。土佐往還というように、かつて土佐の中央と西南部



七子峠への遍路道

を結ぶ幹線道路だったところを、平成九年頃から遍路道として整備して、往還という歴史を遺そうとしているのだそうです。となると、大坂遍路道こそが本来の遍路道に違いありません。往時の遍路たちは社会から距離を置く修行者だったはずですから、土佐往還と言われるような幹線道路を歩くはずがありませんから・・・。

そこで、私たちは大坂遍路道を行くことにしました。たとえ、雨の時には沢の増水で通行不能になると遍路地図に書かれていようとも。

七子峠越えも、峠越えによくあるパターンで、峠の真下までは平坦で最後に峠まで一気に登る道でした。次第に、口数も少なくなり、息が荒くなります。ただし、Sさんだけは、「こんなにきついなんて、知らなかったわよー。」「もう二度と遍路には来ない！」などと、口は達者でした。

最後はきつい登りでしたが、地図を見ると標高は287mで、標高差約200mを一気に登ったことになりました。ちなみに、そえみみず遍路道だと標高409mまで登って、七子峠まで下って来ることになりましたか



七子峠間の急こう配の階段

ら、きつかったとはいえ、やはり大坂遍路道が正解だったようです。最後の階段を登り切ると、七子峠のドライブイン駐車場に出ました。展望台からは遠く土佐久礼の海を望むことができました。

三十七番岩本寺到着

七子峠から影野駅まで歩き、影野から窪川駅までは、電車で移動。

駅前のバブリーな高知信用金庫を右手に見て、古い町並みを左折して500mほど歩いた正



影野駅にて。ようやく電車が来ました。

「電車と雲水」というのは、写真としてはいい題材ですが、行脚している（つまりは歩いていないはずの）雲水が電車を待っているというの考えられないおかしな光景ですよ。

面が、三十七番岩本寺でした。

本堂に着いて、影野から歩いている健脚組が間に合うかどうか思案しましたが、先にお参りをさせてもらうことにしました。ここは本堂内の土間まで入ってお参りをすることができましたが、お参りを終えて外に出たところに健脚組が到着。ようやく到着した健脚組を讃えつつ、再び本堂内で般若心経。やはり全員そろってのお参りの方が同信同行で気持ちがいい。

一日目の宿泊は、ここ岩本寺宿坊。住職いわく、「バブルのころは5～60万人ぐらいのお参りがあったんですが、今はずいぶん減って年間10万人ぐらいです。」それでもすごい参拜の数に驚き、すぐそろばんをはじいた人もいたようです。なるほど、年間5～60万人だったらこんな立派な宿坊も必要だったんだらうと納得しました。遍路シーズンにはまだ早く、宿坊は貸切だったようで

窪川駅から岩本寺へは、窪川の古い町並みを通って行きます。町中、ひなまつりの飾り付けがしてあり、人通りはありませんが、少し華やかな雰囲気は漂っていました。



す。夕食は品数も多く、なにより久しぶりにお接待をいただきました。しかも、芋焼酎のお接待とあり、今日の疲れも一気に吹っ飛びました。吹っ飛び過ぎの人はいなかったか少し心配でしたが・・・。



三十七番岩本寺本堂前にて、出立前の一枚。

大方海岸を西へ

二日目は、窪川駅から海の王迎駅まで行き、そこから一路四万十川の河口を目指しました。四万十川の河口までは海岸沿いの遍路道です。途中に食堂などあるはずもなく、20分ほど歩いたところにある道の駅で、昼食弁当を調達。あとは何も心配せず、四万十川を目指してひたすら歩けばいいのです。

道の駅は、大方町の大型海浜公園の入口にあります。遍路道は、海浜公園のサイクリングロードに姿を変えて、松林の中を西に向かって真っすぐです。松林



を抜けると、広い海原を左に見ながら歩くことになりました。みちしるべにしたがって右に曲がると、らっきょう畑が広がっていました。

公園西の川を渡ると、田野浦そして出口の漁村の中を歩いていきますが、道から海は見えなくなり、どこか山の中の集落を歩いている錯覚を起こしてしまうようです。

そろそろ、おなかも空いてきて、どこかでお弁当を広げられるところを探そうという時間になってきました。出口の集落から海に出られそうな道。行ってみると、広い砂浜と黒潮が打ち

寄せる岩場という絵にかいたよ
うな景色が広がっていて、格好
の昼食場所を発見できました。
きれいな景色と波音もおかず
に、道の駅で買ったお弁当は、
最高のごちそうになりました。



四万十を渡る

出口海岸からサーフィンで有名な平野海岸、そして四万十川河口の渡し舟の予定だったのが、昨年の大雨で河口の地形が変わってしまい、舟は欠航中。以前の渡し舟が廃業の後、保存会ができて運航を再開していたのに、残念！

というわけで、四万十川を渡るには、一番河口に近い四万十大橋を渡るしかありません。平野海岸から四万十大橋までは、遍路地図にも載っていない、ということのみちしるべもない道を、パソコンでダウンロードした地図を頼りに歩きました。これぐらい不安なこともないのですが、たまたま出会ったウォーキングの人に教えられたりもして、迷うことなく四万十川の堤防にたどりつくことができました。

「人生即遍路」ということであれば、私たちも人生を歩く上

での地図やみちしるべが必要だということ、改めて感じさせられた道だった気がします。そして、四万十川を無事にわたることができたことも、三途の川を渡るに置き換えることができ、気がしてきました。

四万十川を渡ったところで路



四万十川の堤防を歩く。

線バスに乗って一路足摺の予定でしたが、予定時刻よりだいぶ早く到着したので、次のバス停まで歩くことにしました。

ここでも健脚組は、時刻表と脚力を照らして、もう一つ先のバス停まで歩いて行きました。

残されたのんびり組は、四万十川野鳥自然公園で、バスの到着までしばしの休憩となりました。



「和尚さん、撮らせてーっ。」とYさんが撮った写真。荷物は前後の振り分けになっけて、頭陀袋に入り切れないときは、このように後ろにもくくりつけられます。伝統的な雲水姿ですが、非常に合理的にできています。でも、弁当の中身の海老フライまで見えたのはうかつだった。

足摺到着

高知西南交通バス、初崎入口バス停を15:50発、所要時間約一時間半、足摺岬に17:31に到着しました。

できれば岬の付け根に位置する以布利のへんろ宿に泊って、三日目に足摺岬までの遍路道を



歩こうと思いましたが、20人も泊れるへんろ宿がなく、仕方なく金剛福寺宿坊に泊らざるを得ず、バスにて足摺岬に直行となったわけです。

へんろ宿に泊れなくなり、金剛福寺に電話をすると、この時期は休んでいるんですとのこと。なんとか交渉すると、20人の団体ならということでききました。

かたや20人で断られ、かたや20人で泊ることができ、これまた「人生即遍路、遍路即人生」を感じました。

「歩き」軽視の道づくり

三十八番金剛福寺のお参りを終え、三日目に次の札所もお参りしようと思うと、丸一日バス・電車での移動ばかりになってしまいます。それでは歩き遍路の道にはずれることになりま

す。本当の歩き遍路なら、三十八



番をお参りした後、再び来た道
を戻るか、足摺の東西どちらか
の海岸沿いに打ち戻るしかあり
ません。そこで、私たちは足摺
の東側、当初の予定で歩くはず
だった遍路道を北上することに
しました。足摺の東側は道幅も
狭く、民家も車の交通量も少な
いところですよ。なにより、かつ
て歩いた時に、歩き遍路道らし
さがよく残っていた記憶がある
からです。

約八年ぶりでしょうか。足摺
の道も様変わりしてしまいました。
生活
して
る人
のため
に車
が通
りやす
い道
を作
る必
要が
ある
のは
大き
い

わかります。しかし、それに
伴って遍路道が寸断され、なか
にはどこが遍路道かわからなく
なっている所さえありました。
「四国八十八ヶ所を世界遺産
に！」というなら、せめて遍路
道という歴史的財産をわかるよ
うにだけでもしてもらいたい
と思いました。



さらに、逆打ちでみちしるべ
も反対側を向いていますから、
歩き遍路道を探し探しながら歩
くことになりました。

象徴的だったのは、窪津漁港
を過ぎてからの道でした。遍路
道は、漁港に迫る山の中に入
り、山越えとなります。木が生
い茂り、丸太橋を渡り、いか
も山中の遍路道。いっぽう、N
さんが歩いた車道は岬を巡り、
距離的には遠いのですが、平坦
な道。遍路道と車道との合流点
で、Nさんといっしょになりま
した。道づくりは、早くを優先
して、遍路もそっちを通ればい
いだろうという考えを見せつけ
られた気がしました。



ギリギリセーフ
津呂の集落を過ぎると、遍路地図にも載っていないような歩き遍路道が残っていて、これぞ歩き遍路のだいご味といった感です。急坂を登って山の中に入ると、それはそれは静寂な歩き遍路たちの世界。川を渡り、石



「津呂」のへんろ小屋。無料で泊ることもできます。

ころだらけの道を歩き、急坂を下り・・・、これで夕方には飛行機に乗り、夜には千葉に居ることが不思議に思えるほどの山の中です。
山を抜けたら、バスに乗る予定の以布利まで1.5キロほど、12時18分のバス時刻が気になってきました。後続組は大丈夫だろうか。
先発組が以布利のバス停に着くと、バス時刻まで20分弱。後続組がどこまで来ているか携帯で聞くと、歩いて20分でバス停までは来れないところ。ここで乗り遅れたら中村までタクシーしかありません。後続組にタクシー会社の電話番号を教え、タクシーでバス停まで来るように指示。ところが、何を間違えたかタクシーはバス停にやってきました。あわてて事情を話し、後続組を迎えに行ってもらいました。
バス停でやきもきしてしまし

たが、なんとかタクシーも間に合い、全員バスに乗車して中村に向かうことができ、ほっとしました。
中村からは土佐くろしお鉄道の特急で一時間半、高知駅から乗りなれた空港リムジンで高知龍馬空港。高知龍馬空港に降り立つのも次回のみとなりました。



あしずり遍路道の山中で

2巡目

第8回

参加者募集
約20名

四国あるき遍路の旅

- ◆時間があれば行きたい方・・・土日を利用しての二泊三日の旅です。
- ◆まだ遍路に行く年でもないからという方・・・体力のあるうちですよ。
- ◆興味はあるんだけどという方・・・思い立ったが吉日といいます。
- ◆どんな人が一緒なのか不安な方・・・一緒に歩けば、皆、仲間になりますよ。
- ◆体力に自信のない方・・・マイペースで大丈夫。疲れたらタクシーも可。
- ◆わからないことがある方・・・どうぞお問い合わせください。



二巡目の第八回の参加者を募集いたします。
八回目は、高知県最後の札所延光寺から愛媛への峠越えをして、宇和島周辺の札所をお参りする予定です。

【日程】 十一月二十五日(金)
～二十七日(日)

【旅程】 飛行機にて高知へ。電車にて三十九番最寄駅下車。三十九番延光寺参拝後、宿毛周辺で宿泊。二日目は、愛媛県境の松尾峠越え。四十番観自在寺参拝、旧内海村まで歩いて宿泊。三日目、内海から旧津島町へと、峠を越えながら柳水大師・清水大師をお参り。後、バスにて宇和島。電車で松山駅、松山空港から帰路。

【参加費】 約五〜六万円を予定

【申込】 お電話・メールなどで、お寺までお申込下さい。



平成22年度花園会会計報告

平成22年4月1日～平成23年3月31日

	科目	金額	備考
歳入	前年度繰越金	156,165	
	お寺より活動費	1,505,000	
	行事収入	2,448,287	年越し参り、地藏盆・禅童会・土曜会・新年会・写経会・ご詠歌などの参加費を含む
	雑収入	10,156	東京教区からの法話会助成金平成22年度分及び預金決算利息
	歳入合計	¥4,119,608	
歳出	宗派賦課金	167,500	本山納付花園会費、災害見舞金ほか
	行事費	2,763,206	年越し参り・地藏盆・禅童会・土曜会・写経会・ご詠歌ほか
	事務費	538,396	事務経費、行事案内状の印刷費、郵送料、事務処理用パソコン入れ替え
	会議費	191,760	月例役員会
	研修費	178,655	役員研修、東京教区授戒会
	慶弔費	0	
	寄付金	270,000	3.11東日本大震災の霊桃寺さんへの災害義援金、法事机用長足10組お寺に寄贈
	雑費	0	
	歳出合計	¥4,109,517	
剰余金	¥10,091	剰余金 ¥10,091は次年度繰越金としました。	

東日本大震災

復興祈願



圓福寺写経会の先生をお勤めの斎藤加代子さんの記事が、新聞に掲載されましたので、ご紹介いたします。

2011年(平成23年)6月11日(土曜日)

言 宣 兼 門

般若心経190巻 犠牲者に

亡くなられた方々の慰めに
なればと、写経教室講師の斎藤加代子さん(69)(千葉市稲毛区)が生徒たちと般若心経を写経した。その数190巻。写経は14日に宮城県石巻市の禅昌寺で営まれる百か日慰霊法要で奉納される。
斎藤さんは東北地方の被災地で犠牲者が埋葬されるニュースを新聞やテレビで目にする度に「せめて写経だけでも一緒に納棺できないだろうか」と思っていた。約50人の生徒に打ち明けると、生徒も同じような思いを抱いていたことが分かり、授業時間などを利用して4月から約1か月

千葉の写経教室 石巻の法要で奉納

かけて書き上げた。
斎藤さんは完成した写経について交流のある寺院に相談したところ、宮城県大和町の天野泰俊さん(52)が法要へ持参することが決まった。天野さんは、「犠牲になった方に納経することができて大変ありがたい。犠牲者も喜んでいるのではないかと感謝している。
斎藤さんは、「震災で犠牲になった人に貢献したいと思いい、みんなが本当に心を込めて写経をした。必要とされれば、犠牲者のために写経を続けたい」と話している。

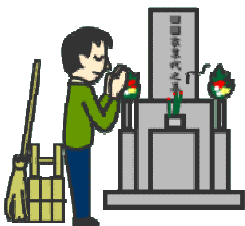
去る四月十六日、四月の土曜日として、東日本大震災復興機関の写経会を開催いたしました。二十五名の参加者が復興を祈願して、慣れない写経に取り組みました。
志納の納経料十万七千円を、あしなが育英会東日本大震災・津波遺児のために寄付させていただきます。

□□境内墓地のご案内

境内の墓地に空きができましたので、ご希望される方がいらっしゃいましたらお申し込みください。

- ◇募集期間・・・八月末まで
(応募者が多い場合は、抽選となります。)
- ◇募集区画・・・二区画
- ◇区画面積・・・
奥行 85 cm × 幅 90 cm
- ◇永代使用料・・・百万円
- ◇応募資格・・・
圓福寺の檀徒となること。
(過去の宗旨・宗派は問いません。)
- ◇建墓条件・・・
丘カロート式です。
墓石については特に条件はありません。

いつでもご自由
にご見学ください。
また、ご不明
な点はお寺までお
問い合わせください。



平成二十三年上半期
お寺と和尚の記録抄

1月	1日	新春ご祈祷
	1日～3日	修正会
	16日	花園会新年会
	29日	幼稚園バザー「くすのきまつり」
2月	6日	写経会
	10日～12日	幼稚園、職員研修旅行
	14日	成田円通寺先住職一周忌
	19日	土曜会「仏教シアター」
	21日	幼稚園、年長組「お茶会」
	25日～27日	四国あるき遍路の旅(二巡目の第七回)
3月	1日	幼稚園、会計監査
	6日	写経会
	7日	平林寺指月庵老大師通夜
	8日	平林寺指月庵老大師密葬
	13日	春彼岸法要
	17日	幼稚園、卒園式
	23日	土曜会「彼岸法話会」 布教師 五葉 光鐵師

3月	24日	取手長禅寺彼岸法要
4月	3日	写経会
	9日	幼稚園、入園式
	12日	平林寺指月庵老大師納骨式
	16日	土曜会「東日本大震災復興祈願写経会」
	18日～20日	岩手霊桃寺、震災見舞い
	29日～30日	平林寺指月庵老大師津送(本葬) しんぼう
5月	8日	写経会
	15日	谷中霊梅院、施餓鬼法話
	17日	いわきへ、作付不能の稲苗引き取り
	21日	土曜会「市原ポラントラ」
	26日	幼稚園、決算監査
6月	5日	写経会
	8日～9日	浜松永安寺、伽藍落慶祝い
	14日～15日	宗達禅士、円覚寺立班垂示式
	19日	ボーイスカウト坐禅体験
	22日～23日	いわきへ、稲の育苗ケース返却
7月	3日	写経会
	9日	初盆・新入檀信徒施餓鬼会
	10日	山門施餓鬼会

自分、たんけんたい

(6月の「園だより」から)

例年になく早い梅雨入りとなりました。季節外れの台風もやってきてしまいました。そんな中、子どもたちのネイチャerland「たんけんたい」が始まりました。

すでにお手紙でお知らせしたとおり、年長さんの「たんけんたい」は、「田植え」でした。

ネイチャerland近くに二反の田んぼをお借りして、まずは元肥という肥料まき。耕す前の土が締まった状態でしたが、それでもぬかるみに足をとられて



四苦八苦。田んぼに長靴をとられたり、尻もちをついたり、あらかじめ先生に話を聞いていても、見るとやるとでは大違いました。

肥料をまいた後に、田んぼをきれいに耕してもらい、数日、土を寝かせてから、いよいよ田植えです。あぜ道にクラスごとに分かれて、どろどろの田んぼに足を入れなければなりません。長靴で田んぼに入ったのは違い、直接肌でどろどろに触れなければなりません。なかなか足を踏み出せない子、ちよつとどろに触れては足を引っこめる子、大胆に足を踏み入れる子など、十人十色の姿を見せてくれました。ほとんどの子が生まれて初めての体験だったと思います。

「たんけんたい」というと、田んぼの活動にチャレンジしたり、年中さんは梅の実探しをしたりと、初めてのことで、知らないことを発見・体験することだとおもいます。それは、子どものときに、とても大切なことだと誰もが思っているはずですよ。



そのうえで、もっと大切なものがあることに、子どもたちの姿から気づかせてもらいました。

はじめて田んぼに足を踏み入れる時の「勇気」や、草の上をはだして歩く時の、初めての感覚や痛みを「がまんすること」と、自分で田植えをしたという「自信」、それ以外にも子どもたち一人一人が、自分の中の知らない力や気持ちに気づいたと思います。

ということとは、「たんけんたい」って、自然とか植物とかのことだけでなく、自分の中にある「勇気」や「がまん」や「自信」を発見する活動でもありません。

「たんけんたい」を通して、たくさんの自分たんけんもしてもらいたいと願っています。



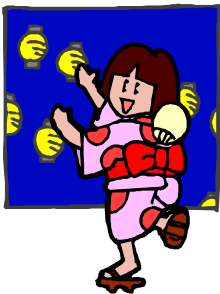
子どもたちのお盆

地蔵盆のご案内



8月20日(土)

午後5時	供養受付(本堂にて)
5時半	水子・ペット・人形供養
6時	御霊送り
8時	模擬店閉店・地蔵盆終了



ご供養のご案内

地蔵盆では、水子供養とペットの供養、人形の供養とお焚き上げをしております。供養をなさりたい方は、添付の申込書を送って下さるか、お電話にてお申込下さい。

*供養料

水子	一霊位	三千元
ペット	一霊	千円
人形	一体	千円

*供養料は当日の受け付けです。

山岡鉄舟母堂のお地蔵さんにちなんで毎年開催されている「地蔵盆」も今年で第九回。

参道の両側に「禅重会」に参加した子どもたちが作った灯籠が飾られ境内のわらべ地蔵たちにお灯明があげて、本堂では、水子供養・ペット・人形の供養。そのお灯明を頂いての「みたま送り」、幼稚園児の盆踊りとなります。

織 暑 御 恩 舞

お品書き

手作りの焼きそば、
 炭火やきとり、山
 形産玉こんにゃ
 く、昔なつかしの
 駄菓子、市原産米
 のポン菓子の実演
 販売、冷たい生
 ビールジュース、
 こころしずかに野
 点の一眼、その他